

## 入 賞

ペンネーム 天パー法師 [北海道/45歳] テーマ「自分」

拝啓 親鸞聖人様 私は、現在の日本に生きるものです。聖人様が浄土へ旅立たれて750年経ちました。文明は飛躍的に発達しましたが、人の心は相も変わらず「欲」「傲慢」「不満」「不安」に満ち溢れた世の中がつづいています。人の心の悲しさを感じます。

さて、己はどうなのかと問われれば煩惱に支配され「悩み」「苦しみ」の日暮を送っています。私は、先天性の目の病を持って生まれて来ました。幼い頃は、ほぼ普通に見えていたのですが、思春期の頃から徐々に視力を奪われ、45歳の現在では見るもの全てが霞のかかったような状態です。15歳からの30年間は常にこの障がいを意識せざるを得なかった人生でした。「なぜ、自分だけ」「俺が何をしたんだ」と苛立ち、職場では蔑まれ、評価もされないことに憤慨して生きて来たのです。他人を恨み、親を恨み、しいては自分を呪いました。そのような日々の中、お通夜の縁で浄土真宗の教えにふれたのです。俄か門徒の私は何より人間「親鸞」にとっても興味を持ったのです。聖人様を「悩みの達人」と評していた人がいたのですが、正にその通りだと思います。私は、聖人様のことをもっと学んで行こう、それが生きて行く「道標」になるのではないかと信じています。

最近、ここまでやってこれたのは、多くの人に出会い、助けてもらったからやってこれたのではないかと考えるようになりました。これは自分の力ではなく、阿弥陀様のお陰なのではないかと思っています。反面、相変わらず「恨み」「妬み」「嫉み」の煩惱も心に渦巻いています。聖人様のおっしゃる通り、臨終のその時まで煩惱の苦しみからは逃れられないのだらうと思います。これからも、煩惱を抱きながら、自分以外の全てのものに感謝の心を持って、そして何よりこの手紙を代筆してくれている妻に一番の感謝をして生きて行こうと思います。「南無阿弥陀仏」を唱えながら。

合掌 さてさて 敬具